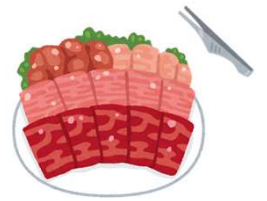


腸管出血性大腸菌感染症(O157等)にご注意を！

大腸菌は元々、人や動物の腸の中に住んでいる腸内細菌です。腸内細菌は体にとって良い働きをするものもたくさんありますが、下痢などをひきおこすものもあります。中でも「ベロ毒素」という毒素を作りだし、血便等の重い症状をひきおこすことのある種類の大腸菌を「腸管出血性大腸菌」と呼びます。例年、夏～秋にかけて腸管出血性大腸菌感染症の発生が多くなります。

●どうやって感染するの？

主な原因は加熱不十分な牛肉等や、それらから汚染された食品などを食べて感染します。また、患者の糞便で汚染されたものを触った指や物が口に入ることでも感染します。



●潜伏期間は？

2～14日（多くの場合3～5日）です。

●どんな症状？

激しい腹痛、頻回の下痢が主な症状で、血便となることもあります。発熱は軽度で多くは37度台です。はじめの症状が出て、数日から2週間以内に溶血性尿毒症症候群（HUS）などの重症な合併症を発症することがあります。HUSの発症は3歳以下の小児に多く見られます。



予防するには？

- ①食肉等の食品は十分に加熱（中心温度75℃以上で1分間以上）しましょう。
- ②焼肉等で生肉を扱う箸は、食べる箸と使い分けましょう。
- ③調理器具の消毒をしましょう。特に生肉等を扱ったあとは十分に行いましょう。
- ④家に帰ったとき、調理前、食事前、トイレのあとは流水と石けんで手を洗いましょう。
- ⑤患者からの二次感染に注意しましょう。（裏面をご覧ください）



【お問い合わせ先】

各区保健福祉センター

【発行元】

大阪市保健所感染症対策課 TEL 06-6647-0656 FAX 06-6647-1029

二次感染防止のポイント

腸管出血性大腸菌感染症と診断された患者さんからの二次感染を予防するために、患者さんの便の検査で陰性が確認できるまでは、次のような対応に特に注意しましょう。

★おむつ交換

- 便を処理する時は使い捨てビニール手袋を使いましょう。
- 便で汚れたおむつの交換は、内容物が飛び散らないように注意して包み込み、すみやかに閉じてビニール袋に入れましょう。
- 複数人のおむつを交換する時は、一人の処理が終わる度に必ず手袋を取り替え、手を洗いましょう。



★汚れた衣類の消毒

- 患者さんの便で汚れた衣類は、便を取り除き、汚れを落としましょう。
- 0.05～0.1%（5%濃度なら50～100倍）にうすめた塩素系消毒薬（次亜塩素酸ナトリウム）につけおきます。
- 塩素系消毒薬のつけおきは色落ちする可能性があるのでご注意ください。
- つけおきが終わったら、通常どおり洗濯をします。
- 塩素系消毒薬以外に、熱湯で煮沸しても十分効果があります。



★トイレの消毒方法

- トイレの便座、便器の水洗の取っ手、ドアノブ、手すり、手洗い場の蛇口等はこまめに清掃し、0.02%にうすめた塩素系消毒薬で拭きます。
- 消毒薬の霧吹きだけでは効果が不十分です。



★お風呂やプールでの注意点

- 入浴は、まずおしりを石けんでよく洗ってから入ります。
- 患者さんはできればシャワーだけにして、浴槽に入る場合は家族の中で最後にしましょう。
- タオルは自分専用のもを使い、他の人との共用はやめましょう。
- 患者さんは、ビニールプール等に入ることは控えましょう。



▣大阪市ホームページ

「腸管出血性大腸菌感染症—O157、O111、O26など」

<https://www.city.osaka.lg.jp/kenko/page/0000005551.html>

詳しい消毒方法は同ページの「感染症予防のおはなし」をご覧ください。

大阪市 O157

検索

